

モルディブ共和国の初等美術教育とイスラム

著者	箕輪 佳奈恵
発行年	2016
学位授与大学	筑波大学 (University of Tsukuba)
学位授与年度	2015
報告番号	12102甲第7832号
URL	http://hdl.handle.net/2241/00143571

氏名	箕輪 佳奈恵
学位の種類	博士（芸術学）
学位記番号	博甲第 7832 号
学位授与年月	平成 28年 3月 25日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当
審査研究科	人間総合科学研究科
学位論文題目	モルディブ共和国の初等美術教育とイスラム

主査	筑波大学教授	博士（芸術学）	岡崎 昭夫
副査	筑波大学教授	博士（芸術学）	齊藤 泰嘉
副査	筑波大学教授	博士（芸術学）	直江 俊雄
副査	埼玉大学准教授	博士（芸術学）	内田 裕子

論文の内容の要旨

（目的）

本論文は、モルディブ共和国における初等美術教育の歴史、制度、実践を明らかにするとともに、イスラム社会に適した教育のあり方を考察することを目的としている。

（対象と方法）

本論文の対象は、モルディブ共和国における初等美術教育であり、その解明のため、同国の現地語文献を含む全国共通教育課程ならびに教師用指導書の文献解読、同国ならびに他のイスラム社会の子どもたちによる絵画作品の分析、著者が本研究開始前に同国の小学校において青年海外協力隊員として指導に当たった期間の教育記録の質的分析、本研究期間に同国を現地調査して小学校で観察した詳細な授業記録と担当教師への聞き取り調査結果など多角的な資料を通して、教育制度と実態、教師の美術教育に関わる意識等を明らかにするとともに、現地の伝統的な造形文化や現代生活における視覚文化環境、イスラムの宗教的信条に関する文献調査や聞き取り調査結果など、研究対象を把握する上で重要な背景を踏まえて探究している。

（結果）

本論文は5つの章から構成され、モルディブ共和国を一事例とするイスラム社会において、初等教育の美術学習がどのように実施され、その現象が現地の文化や、子どもと教師の意識とどのように関わっ

ているのかを探究している。

第1章「イスラム世界における美術教育の概観」では、アジア、中東、アフリカ、ヨーロッパにおいてイスラム教徒人口が多数を占める 28 か国を対象として、学校における美術科目や教育制度とイスラムとの関係などを概観した上で、トルコ、パキスタン、イラン、イラク、イギリス、クウェート、シンガポール等における美術教育の状況を比較し、また 1987 年にイギリスで開催された 11 か国のイスラム諸国の子どもたちによる絵画展覧会の出品作品から 109 点を見つけ出して詳細に分析し、イスラム世界に特有とされてきた人物表現等に関する忌避等が必ずしも一般的な特徴ではなく、宗教的信条との関係においても多様な現象が見られることを明らかにした。

第2章「モルディブ共和国の概要—教育史と造形文化を中心に—」では、本研究で主な対象とするモルディブ共和国について、社会的・文化的背景、イスラムに基づく伝統的な教育から近代教育制度導入への経過などを明らかにするとともに、伝統的手工芸等を例として同国の造形文化の特色を指摘し、第1章で示した多様なイスラム世界における同国の位置付けを明確にした。

第3章「モルディブ共和国における美術カリキュラムの変遷」では、散逸してわずかしか現存していない同国初の共通教育課程の現地語冊子の解明をもとに美術教科の目標、内容、関連する教師用指導書に示された指導例などを明らかにするとともに、現地教師への聞き取り調査による美術授業の記憶、イギリスに保管されていたモルディブ共和国の子どもたちによる絵画作品のコレクション分析などを通して、近代教育制度が導入された 1980 年代当時の美術教育を多角的に明らかにした上で、その後の共通教育課程の改訂と実際の教育活動への影響について詳細に解明した。

第4章「モルディブ共和国での美術教育実践—教育開発の現場における活動記録の質的分析—」では、著者が 2008 年から約 2 年間にわたる青年海外協力隊任務で行った美術の授業に関して日々記述した膨大な活動記録について、記録文における記述の対象と解釈の傾向という二つの軸を設定し、分類、概念化、カテゴリーの抽出などの手順を用いて分析した上で、当時実践した授業の記録とも対照させながら解釈を試み、異文化において教育を行う者の価値観を問い直す視点を見出している。

第5章「モルディブ人教師の美術教育実践」では、2014 年に約 1 か月間同国に滞在し、二つの地域の学校を対象に現地調査を行った結果から考察を行っている。8 名の現地教師による授業を観察記録し、また現地語・英語を交えた同教師たちからの詳細な聞き取り結果から、例えば日本の美術教育において主要な概念とされる創造性や伝統文化などに対する彼らの認識、さらにはこれまでの研究ではほとんど解明されてこなかった、教師たちの宗教的信条が美術教育実践に与える独自の意義づけについて、具体的な事例における検証も含めて指摘している。

(考察)

本論文は、著者自身のモルディブ共和国における教育実践記録の分析のほか、現地語の文献資料やイスラム社会の子どもたちの作品、現地教師たちの授業観察や詳細な聞き取りなど、同国の暮らしと教育の場に深く入り込んで見出した独自の研究資料をもとに、イスラムの宗教的信条と美術教育との関わりについて新たな解釈を提示したが、同国において解明された特質が他のイスラム社会の中でどの程度の普遍性を有しているのかを完全に示すには至っていない。また、現地教師が抱えている個人的な宗教的信条と美術教育について一定の関係を示すことができたが、これを端緒としてイスラムの教えと教育との関わりについてさらに解明していく可能性が示唆される。

審査の結果の要旨

(批評)

著者が本論文でモルディブ共和国の初等教育における美術について、歴史、制度、カリキュラム、授業実践、子どもの作品、教師の意識など、独自の多角的な資料の分析を通して明らかにし、人々の日常における宗教的信条と教育における美術表現との関わりについて一つの新たな解釈を提示したことは高く評価できる。本論文は今後のイスラム世界における美術教育の発展に資する研究として価値があり、今後国際的な協力を通して、より多様な地域における教育研究を進展させることに期待したい。

平成 28 年 1 月 18 日、学位論文審査委員会において、審査委員全員出席のもと論文について説明を求め、関連事項について質疑応答を行い、最終試験を行った。その結果、審査委員全員が合格と判定した。

よって、著者は博士（芸術学）の学位を受けるのに十分な資格を有するものと認める。